

令和4年度

事業報告書

公益財団法人 札幌交響楽団

事業報告書

2022年4月1日から2023年3月31日まで

公益財団法人 札幌交響楽団

公益財団法人札幌交響楽団は、定款第2章第3条に基づき、交響管弦楽による音楽芸術の普及向上に関し、必要な事業を行い、もって札幌市及び北海道における文化と教育の振興に寄与することを目的とする事業を行った。

定款第2章第4条に掲げる事業を次のように行った。

2022年度のオーケストラによる公演

(1) 札幌交響楽団を編成し、及び維持すること。

1. 評議員、役員等及び事務局

評議員20名、理事20名、監事2名、事務局員14名

2. 交響楽団の編成

首席指揮者、名誉音楽監督、友情指揮者、正指揮者 各1名、楽団員73名

ステージスタッフ、ライブラリアン及びパーソネルマネージャー 計4名

(2023年3月末日現在)

3. 首席指揮者、名誉音楽監督、名誉指揮者、指揮者及び楽団員は、次の回数の公演に出演し練習に従事した。

首席指揮者 マティアス・バーメルト 出演回数14回、練習日数15日

名誉音楽監督 尾高忠明 出演回数 3回、練習日数 4日

友情指揮者 広上淳一 出演回数16回、練習日数10日

正指揮者 川瀬賢太郎 出演回数13回、練習日数 8日

交響楽団としての出演回数は合計114回

これらの練習日数合計116日

なお交響楽団として移動日等も含めての稼働日数は238日（オーディション2日を含む）

(2) 交響管弦楽の演奏を行うこと。

1. 自主公演 計44公演

【定期演奏会】16公演を実施

2022年4月から2023年3月までに1プログラムにつき2回ずつ計16公演を開催した。

定期演奏会は札幌交響楽団の活動の主軸になる公演。バーメルトが3回計6公演、尾高が1回計2公演、広上が1回計2公演を指揮したほか、コロナ禍で来日が延期となっていたドミトリー・シトコヴェツキー、オッコ・カムが定期演奏会を指揮した。

【hitaru シリーズ定期演奏会】 4 公演を実施

2022年4月から2023年3月までに hitaru での定期演奏会は4公演を開催した。うち2公演はコロナの水際対策により指揮者、ソリストを変更して開催した。

【名曲コンサート】 4 公演を実施

予定した4公演を開催した。

【特別演奏会】 10 公演を実施

○札幌市内公演（主催：札幌単独）

1. 札幌シンフォニック・ブラス 5月 7日
2. Kitara でクラシック（札幌市と共催）※ 6月 2日
3. 4 おんぷでステップ♪みんなのオーケストラ in 教文（2公演）
（札幌市と共催）※ 7月29日
5. 6 札幌 読み聴かせコンサート「おばけのマーलとたのしいオーケストラ」（2公演）
8月11日
7. hitaru でシネマ・ミュージック！（札幌市と共催）※ 9月 5日
8. 9 札幌の第9（2公演） 12月10日、11日
10. 札幌ふきのとうホール演奏会（六花亭製菓と共催） 2月14日

※札幌市低価格コンサートとして実施した

○北海道内地方公演 9 公演を実施

1. 深川公演 4月 3日
2. 浦臼公演（萬田記念財団協賛：2020年からの延期） 6月29日
3. 清水公演 7月 9日
4. 占冠公演（萬田記念財団協賛） 7月15日
5. 砂川公演 8月 7日
6. 七飯公演 12月26日
7. 江差公演 12月27日
8. 小樽公演 1月21日
9. 苫小牧公演 3月21日

○東京公演 1 公演を実施 2月 9日

2. 依頼公演 44 公演を実施

○札幌市内公演・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26回

○北海道内地方公演・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18回

札幌市芸術文化財団、北海道新聞社、道新文化事業社、北海道電力、北洋銀行、北海道銀行、北海道公立学校教職員互助会、タナカメディカルグループ、北海道テレビをはじめ多くの団体、自治体からの依頼を受けて開催した。なお、年度開始当初はコロナによる開催を危ぶむ声も聞かれたが、道銀ライラックコンサート、タナカメディカルグループ主催無料招待コンサート、稚内定期演奏会、釧路定期演奏会が3年振り、栗山町定期演奏会は4年振りの開催となった。

(3) 青少年の音楽鑑賞及び演奏に関し、指導を行い、その普及を図ること。

オーケストラによる音楽教室26公演を実施

- 札幌市内公演・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13回
- 北海道内地方公演・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11回
- 北海道外公演・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2回

札幌市内公演はKitara ファーストコンサート11公演と市内の高校の2公演。道内地方公演は、ここ3年間はコロナのため中止していた登別、旭川、恵庭、小樽、苫小牧、音更と隔年開催の帯広(1日2公演)、文化庁からの依頼による3校である。文化庁からの依頼は例年北海道外の8~11校を訪問するものであったが、2022年度は道内3校、道外2校にとどまり、道外の2校は秋田県内であった。

楽団員によるワークショップ(体験型音楽教室)や楽器講習会では、学生と音楽を通して交流を深め、鑑賞するだけでなく演奏に参加する感動も広めることができた。(計12回)

- ワークショップ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9回
- 芸術鑑賞会等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3回

(4) その他この法人の目的を達成するために必要な事業を行うこと。

その他の広報宣伝活動

○プログラム・ニュースレターでの告知

自主公演では毎回、楽曲解説、楽団の活動報告、寄附のお願いを掲載したプログラムを発行公演来場者及び会員、関係先に配布。演奏会の開催状況、出演者・プログラムの変更等をニュースレターで発表した。

○ホームページ、フェイスブック、Twitter、Instagramからの情報提供

演奏会の当日券チケット情報、定期演奏会前の楽団員によるプレトーク、指揮者・ソリストからのメッセージを動画配信した。なお、指揮者・ソリストのメッセージは演奏会場でも紹介した。

○その他の公演事業

アンサンブル(7回)

コンサートホール以外の様々な場所でも演奏し、クラシック音楽に接する機会が少ない方にも札幌の存在をアピールした。

○支援学校、病院等への訪問演奏(9回)

特別支援学校や病院等に楽団員が出向き、コンサートに出かけることのできない方々に音楽鑑賞の機会を提供、社会貢献活動を行った。

○Kitara ギャラリー展『札幌交響楽団ものがたりー音楽の響く街』を開催

札幌交響楽団 2022年度活動報告

2023年5月15日作成

公益財団法人 札幌交響楽団

<https://www.sso.or.jp>

札幌交響楽団の活動

オーケストラ演奏会

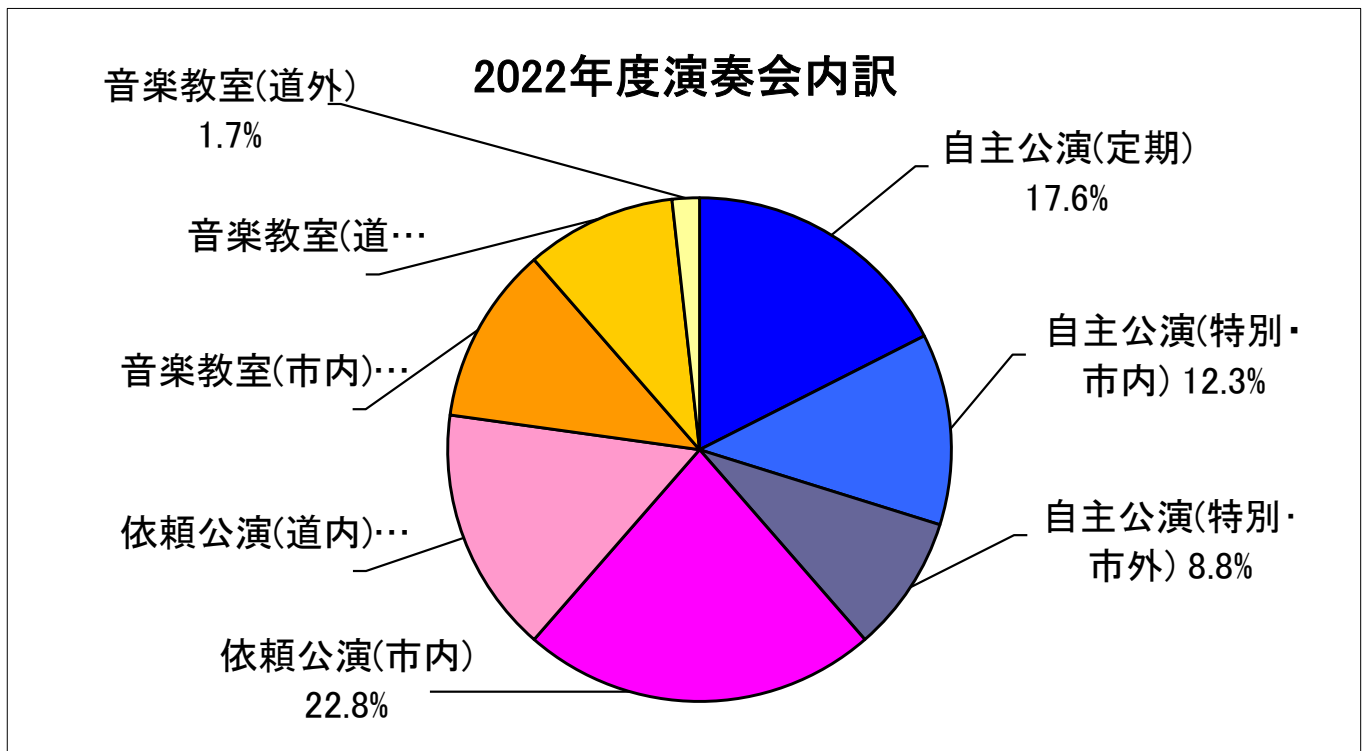
計114公演

■ 自主公演(44公演)

| | |
|-------------|----------|
| 定期演奏会(札幌市内) | 16公演+4公演 |
| 札幌市内 | 14公演 |
| 北海道内 | 9公演 |
| 北海道外(東京公演) | 1公演 |

■ 依頼公演(44公演)

■ 音楽教室(26公演)



教育・地域活動、アンサンブル演奏

計28公演

総計142公演

自主公演

札幌が主催する演奏会

■ 定期演奏会 20公演

2つのシリーズで20公演を開催

定期演奏会「水」をテーマに 8プログラム 16公演

hitaruシリーズ定期演奏会 4プログラム 4公演

■ 札幌市内公演 14公演

札幌名曲コンサート(4公演)

札幌シンフォニック・ブラス(1公演)

札幌夏休みスペシャル・読み聴かせコンサート(2公演)

札幌の第9 in Kitara (2公演)

ふきのとうホールコンサート(1公演)

札幌市共催・低料金コンサート(3プログラム 4公演)

※札幌ポップスは開催見送り

■ 北海道内公演 9公演

深川*／清水／砂川／七飯／江差／小樽／苫小牧
萬田記念財団協賛(2公演) 浦臼*／占冠

*深川、浦臼公演については2021年度開催予定
を1年延期で開催

■ 北海道外公演 1公演

2月 東京公演2023 (東京・サントリーホール)



4月定期演奏会はコンサートマスター就任の
会田莉凡のお披露目になった。コンサートマ
スターの独奏がある「英雄の生涯」を演奏。



最初の名曲コンサートは、川瀬賢太郎正指揮
者就任記念演奏会として開催。
プレトークが付く2023年度の名曲コンサ
ートは、シリーズ4公演のうち2公演は満席となり
好評をいただく。



道内公演は、昨年度からの延期開催2公演を
含め9公演と、昨年3公演の3倍の公演数に。
友情指揮者にタイトル変更の広上淳一が積極
的に道内公演に取り組む。写真は七飯公演。

依頼公演

企業、自治体などの依頼で行う演奏会

札幌市内公演

26公演

札幌市芸術文化財団主催(Kitara、hitaru) 6公演

- ・Kitara→ 5月 Kitaraきがるにオーケストラ
12月 Kitaraのクリスマス
1月 Kitaraのニューイヤー
- ・hitaru→ 6月 hitaruのひととき
2月 hitaruオペラプロジェクト(2公演)

各企業・団体主催 20公演

前年度より各企業・団体様からの市内依頼公演は復活の機運が高まっており、2022年度は、ごく一部を除き、コロナ禍前に毎年開催されていた依頼公演のほぼすべてが開催されました。市民合唱団との共演となる「999人の第9」も再開となりました。

道内各地の公演

18公演

北海道新聞社、北海道電力、北海道公立学校教職員互助会とその他企業による補助と、各自治体、会場ほか関係機関の協力のもと、以下17の市町で18公演が開催されました。

稚内、釧路は3年ぶり、栗山は4年ぶりに定期公演が開催となり、富良野、遠軽では新しいホールがオープンするなど、市内に続き道内全域にコロナ禍からの回復の機運が感じられ、演奏会の活気が道内各地にも戻ってきました。

江別／函館／本別／知内／北斗／稚内／留萌(2公演)
／釧路／富良野／室蘭／音更／豊浦／遠軽／岩見沢／栗山／福島／別海



hitaru主催では、名誉音楽監督・尾高忠明の出演による英国音楽特集のほか、オール北海道での取り組みである「hitaruオペラプロジェクト」の第1弾に出演。



3年ぶりに開催となった市民合唱団との共演による「999人の第九」。室蘭でも地元合唱団との共演による第九公演が実現。



富良野文化会館のこけらおとし公演の指揮は首席指揮者マティアス・バーメルト。

音楽教室

青少年向けに音楽の楽しさを伝える演奏会

■ Kitaraファーストコンサート

11公演

札幌市内と近郊の小学6年生を対象とした「Kitaraファーストコンサート」は、3年ぶりに全11公演を開催することができました。

指揮は、首席指揮者のマティアス・バーメルトが4公演を、残る7公演はすべて正指揮者の川瀬賢太郎が担当しました。



バーメルトはKitaraファーストコンサートのプログラム(曲目)の検討から参加し、教育活動に取り組む。

■ ジュニアクラシック 10公演

北海道新聞社などの助成を受けて道内各地で開催するジュニアクラシックコンサートはコロナ禍前に毎年開催の7市8公演をすべて実施することができました。

恵庭／旭川／登別／小樽／苫小牧／音更／帯広

(2公演)

Kitaraを会場に2つの高等学校のジュニアクラシックコンサートを開催しました。



道内ジュニアクラシックコンサートの多数を広上淳一が指揮。

■ 文化庁主催・文化芸術による子供育成総合事業 (巡回公演事業)

5公演

文化庁主催の巡回公演として、北海道内の3校と秋田県の小中学校2校、計5校を訪問しました。

実施にあたっては、引き続き受け入れ学校と入念な協議の上、感染対策への配慮を行い、事前訪問のワークショップとオーケストラ演奏会を実施しました。



学校での公演の最後に、大きく手をふる楽団員。

教育・地域活動、 アンサンブル演奏会

- **教育への貢献** 教育や子供たち、若者を音楽で支援することに取り組んでいます。



楽器講習は春にインターネットを活用して行い、秋には直接指導で実施しました。



市民カレッジや、北海道大学教養課程などで楽団員がレクチャーの講師を務め、学生から一般市民まで対象を広げて教育普及活動も行いました。



前年度からの延期開催を含め、道内6校の特別支援学校でスクールコンサートを行いました。

- **地域への貢献**

福祉施設や街のにぎわいの中など地域の様々な場面に音楽をお届けすることで、人々の元気と地域の活性化に寄与する取り組みを行っています。



高齢者施設など3施設を訪問しミニコンサートを実施しました。コロナ禍で閉じこもりがちだった高齢者に生の音楽をお届けし、喜んでいただきました。



北海道演劇財団、円山動物園とも共同で文化庁アートキャラバン事業に参加しました。



札幌駅での「JRタワー妙夢コンサート」の復活開催にあたり、早速出演しました。



ES CON FIELD北海道の開幕セレモニーを特別編成のオーケストラの演奏で盛り上げました。

広報活動、普及への取り組みなど

● 広報活動でのインターネットを活用

広報、PRにおいてはこれまでの新聞や、テレビ、ラジオでの情報提供に加え、YouTube、facebook、Twitter、Instagramなど、インターネットの積極的な活用に取り組んでいます。

特に、hitaruシリーズ定期演奏会に関しては、新たな顧客開拓を公演開催の趣旨の一つとすることから、新しいメディアでの広報活動にも力を入れています。

8月開催時は人気のキャラクターと連携したInstagramのシリーズ広告に取り組みました。

また、12月開催時は、クラシック以外の分野でも活躍する若い世代に人気の共演者に焦点をあてた広報キャンペーンを主にSNSで展開しました。

今後も、公演にあわせて手段や内容を変えた試みを行い、その効果を検証することで、より効果的な広報活動展開してまいります。



リボンちゃんとのInstagramシリーズ



若い世代に人気の共演者の動画などを盛り込んだSNSでの広報展開

● 普及活動～オンライン・プレトーク



オーケストラを身近に感じていただく普及活動として、演奏会の聴きどころを楽団員の目線で紹介する「オンライン・プレトーク」を、定期演奏会の都度公式YouTubeで配信しました。毎回、曲目にあわせて出演楽団員を変え、曲目や共演者についてエピソードを交えて紹介しました。演奏会を楽しむヒントとしてだけでなく、楽団員について知っていただく機会として、好評をいただき、2023年度も継続することになりました。

● 普及活動～練習見学会(札幌会員向け)

札幌会員が参加できるイベントとして、コロナ禍前は年に2～3度実施してきた練習見学会を2022年度最後の定期演奏会のリハーサル時に実施しました。

練習見学の後には、指揮の尾高名誉音楽監督によるミニトークを行いました。2023年度は会員向けのイベントの実施にも、より積極的に取り組んでまいります。



<https://www.sso.or.jp>

